
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2004年7月～8月）

気象庁

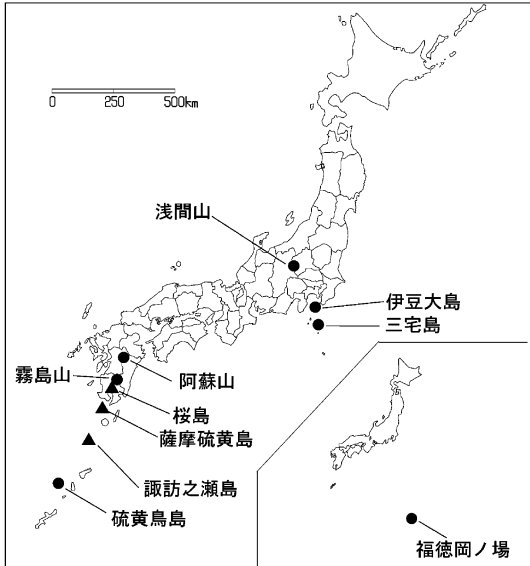


図 1. 2004年7月～8月に目立った活動があった火山

▲: 噴火した火山

●: 観測データ等に変化があったその他の火山

●浅間山 (36°24'12"N, 138°31'34"E)

火山活動は一時静穏になったが、7月下旬から再びやや活発な状態になった。火山活動の推移に伴い火山活動度レベルを2（やや活発な火山活動）から1（静穏な火山活動）及び1から2に変更した。8月31日から微小な地震が多発し、翌9月1日20時02分（期間外）に中規模の爆発的噴火が発生した。

2003年後半以降、二酸化硫黄の放出量や火口底温度に長期的な低下傾向がみられていたが、微小な地震の活動は活発な状態が続いていた。6月（前期間）下旬から微小な地震の回数に減少傾向がみられ、7月上～中旬は少ない状態になったことから、7月20日に火山活動度レベルを2から1に変更した。その後、7月25日夜に微弱な火映現象が確認され、噴煙量の増加や火口底温度の上昇がみられる中、7月26日以降再び地震がやや多い状態となったため、7月31日に火山活動度レベルを1から2に変更した。

微小な地震の発生は、2003年後半以降多い状態が続い

ていた。6月（前期間）下旬から減少傾向がみられ、7月上～中旬は少ない状態で経過したが、7月26日に再び増加、以後8月を通してやや多い状態で経過し、8月31日15時頃から多発した（図2-①）。今期間の月回数は7月692回、8月1,110回（震度1以上が観測された地震はなし）であった（前期間は5月1,240回、6月1,153回）。地震の多発は9月1日（期間外）も継続し、同日20時02分に中規模の爆発的噴火が発生した。

火山性微動は、7月は少ない状態で経過したが、8月上旬に多発した（図2-②）。月回数は7月7回、8月51回であった（前期間の5月19回、6月16回）。いずれの火山性微動も振幅が小さく、継続時間が短い規模の小さいものであった。

噴煙活動は、今年の5月頃から一時的にやや活発になるのがみられていたが、7月下旬以降やや活発な状態が連続するようになった（図2-③、④）。

7月27～29日に実施した現地観測では、山頂火口底中心部の噴気孔等から噴煙が勢よく噴出しているのを確認したほか、火口縁において高い濃度の二酸化硫黄をしばしば観測した。また、7月27～29日に松本市（浅間山の西南西約50km）で、7月30日には長野市（同北西約40km）で、硫黄臭が感じられたり、工場設置の二酸化硫黄の濃度センサーに反応がみられたなどの通報があった。当時浅間山上空では台風第10号の影響で東よりの強い風が吹いており、この風によって山頂火口から放出された二酸化硫黄が遠くまで流された可能性がある。

8月9日～10日に実施した現地観測では、山頂火口底中心部の噴気孔から噴煙が勢よく噴出していた。二酸化硫黄の放出量も多く、火口縁において十数ppmの濃度がしばしば観測された。また、湯の平（火口の西約2km）付近で、植生の一部が茶色に変色していた。これは7月の観測時には見られなかったもので、火山ガスの影響を受けている可能性がある。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラにより、引き続き火口底に高温の火山ガスの噴出による高温部が確認されており、噴煙活動がやや活発になった7月下旬以降、高温部の面積が一時的に拡大する現象が時々観測された。7月28日の現地観測における火口底の最高温度は527℃で（赤外カメラによる）、今年4月26日の観測と比べて約100℃高かった。また、8月9日～10日の現地観測における火口底の最高温度も570℃（同）と高い状態にあった。

また、7月25日21時26分頃、山麓（火口の南約8km

の軽井沢測候所に設置した高感度カメラで、肉眼では確認できない程度の微弱な火映が30秒程度観測された。この微弱な火映は、8月に入り時々観測されるようになった。この現象は、火山ガスの噴出が一時的に高まった際に、火口底の一部が高温の火山ガスにより赤熱し、その光が火口上の噴煙を照らしたために発生したものとみられる。火映が観測されたのは2002年9月以来である。

地殻変動等その他の観測データには、火山活動によるとみられる顕著な変化はなかった。

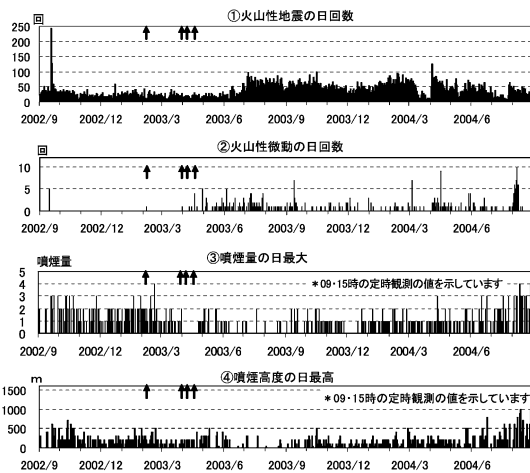


図 2. 浅間山 最近2年間(2002年9月1日～2004年8月31日)

- ① 火山性地震の日回数
- ② 火山性微動の日回数
- ③ 噴煙量の日最大
- ④ 噴煙高度の日最高 (グラフ中の矢印は微噴火)

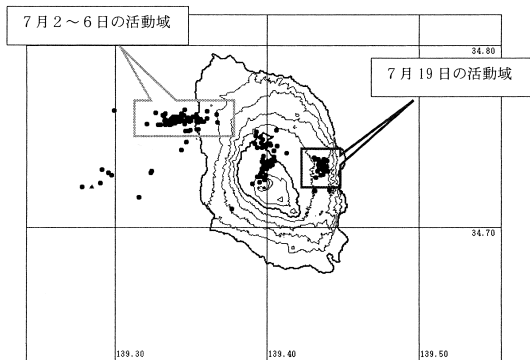


図 3. 伊豆大島 震央分布 (2004年7月1日～7月31日) (東京大学及び気象庁のデータを基に作成.)

●伊豆大島 (34°43'17"N, 139°23'52"E (三原新山))

7月2日10時頃から16時にかけて島の北西部で地震がやや多発した。日回数は66回で、伊豆大島元町で震度1以上の地震が5回発生した。最大震度は3であった。その後、7月4日08時頃と7月6日00時から03時にかけて再び同じ場所で地震がやや多発した(図3)。

また、7月19日に島内東部で地震がやや多発した(図3)。島の東部では時折地震がまとまって発生することがあり、最近では2002年11月にやや多発した。

噴煙活動、地殻変動等、その他の活動に特に変化はなかった。

●三宅島 (34°04'43"N, 139°31'46"E)

多量の二酸化硫黄の放出が続いた。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上1,200mであった(前期間の最高は火口縁上800m)。

上空からの観測¹⁾では、噴煙活動や山頂火口内の状況に大きな変化は見られなかった。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量2,700～14,400トンで依然多い状態であった(図4)。赤外カメラによる観測では、山頂火口内の噴気孔周辺の最高温度は176～190℃で依然として高い状態にあった。また、全磁力の連続観測では特に変化は見られず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

山頂直下では、振幅の小さいやや低周波地震の活動が2003年4月以降活発な状態で推移しており、今期間も月回数が7月1,007回、8月639回とやや多い状態であった(前期間は5月954回、6月464回)。

火山性連続微動の振幅は最近1年半以上大きな変化は見られていない。また、GPS観測によると、三宅島のゆっくりした収縮を示す地殻変動が続いている。

¹⁾ 7月20日及び27日、8月3日、10日、18日及び25

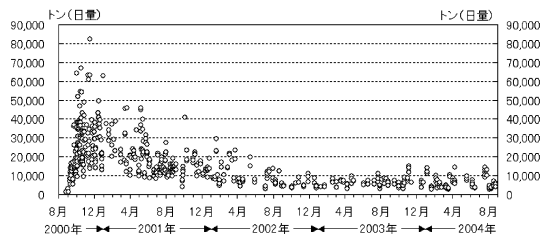


図 4. 三宅島 二酸化硫黄の放出量(日量に換算)(2000年8月～2004年8月)。2002年秋以降は日量3千～1万トン程度でほぼ横ばいとなっている。

日に、東京消防庁、警視庁、航空自衛隊及び海上保安庁の協力により気象庁が実施。

●福徳岡ノ場 (24°17.0'N, 141°29.1'E)

8月16日に海上自衛隊が行った上空からの観測によると、福徳岡ノ場周辺海域に半径約20mの淡緑色の変色水が確認された。

●阿蘇山 (32°52'44"N, 131°05'58"E (中岳))

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

中岳第一火口では、2004年1月14日に規模の大きな土砂噴出が発生して以降、湯だまり²⁾内で高さ約5mの小規模な土砂噴出が断続的に発生している。湯だまりの表面温度は65~82℃と依然として高い値で推移し、湯だまりの色は期間を通じて灰色で、量は約3割であった。また、火口壁の最高温度も278~322℃と高い状態で推移した。

噴煙の状況は、今期間を通じて白色で、噴煙高度の最高は火口縁上800mで通常と比べ変化はなかった。

火山性連続微動は今期間を通じて継続した。孤立型微動は、今期間の月回数は7月2,490回、8月2,675回で、前期間(5月2,713回、6月1,351回)より増加、日回数は23~188回で時々やや多く発生した。

その他、A型地震及びB型地震の発生は少なく、GPSによる地殻変動観測では火山活動に起因する変化は見られなかった。

²⁾ 湯だまり: 活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50~60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

●霧島山 (31°55'51"N, 130°51'50"E (韓国岳))

御鉢火口内で2003年12月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、監視カメラで火口縁上50~400mまで上がる噴気が時々観測された。

新燃岳付近及び御鉢付近の地震活動は低調で、7月9日に御鉢付近で火山性微動が1回発生したが振幅は小さく継続時間の短いものであった。

▲桜島 (31°34'25"N, 130°39'40"E (南岳))

従来からの南岳山頂での噴火が継続したが、比較的静

穏であった。

今期間の噴火回数は7月2日に発生した爆発1回と8月14日に発生した噴火1回の合計2回で、桜島としては比較的静穏な噴火活動であった。有色噴煙が観測された日も少なく、噴煙活動も低調であった。今期間の有色噴煙の高さの最高は8月14日の噴火に伴う火口上1,200m(灰白色)であった。

今期間、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰が観測された日の合計は7月が1日、8月が6日(前期間は5月が1日、6月が8日)、月降灰量は7月、8月共に0.5g/m²未満であった(前期間は5月が1g/m²、6月が12g/m²)。

▲薩摩硫黄島 (30°47'22"N, 130°18'27"E (硫黄岳))

8月13日早朝に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口上500mまで上がっているのが、監視カメラで観測された。また、鹿児島県中央警察署硫黄島駐在所によると、8月15日夜から16日朝にかけて集落(硫黄岳の西南西約3km)で降灰があった。

振幅の小さい連続的な火山性微動が7月1日に発生した。

▲諏訪之瀬島 (29°38'05"N, 129°42'58"E (御岳))

7月1日と7月5日に噴火が発生した。7月1日には、監視カメラ(御岳の北東約25kmの中之島に設置)で噴火を3回観測した。特に14時54分に始まった噴火は日没まで継続した(終了時刻不明)。噴煙の高さの最高は火口上1,000m(灰白色)であった。7月5日には爆発的噴火を1回観測した。噴火が夜間であったため噴煙等は不明であった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、7月1日に火山灰を含んだ噴煙を高さ1,000mに上げているのが確認されたが、期間中、集落(御岳の南南西約4km)への降灰はなかった。

火山性連続微動が7月1日及び7月5日に発生したが、その後は火山性地震、微動とも活動は低調であった。

●硫黄島島 (27°52'38"N, 128°13'28"E)

沖永良部島(硫黄島島の南東約65km)の住民から、7月30日午前中同島で硫黄臭が感じられたとの通報があった。当時硫黄島島上空では北西~北北西の風が吹いており、硫黄島島の火山ガスが流されて到達した可能性がある。また、8月3日夕方、沖永良部島の住民から硫黄島島の方向に噴煙が見えるとの目撃情報があった。

8月4日に海上保安庁第十管区海上保安本部が上空からの調査を実施した。それによると、島の北側及び中央部の噴気孔から白色の噴煙が上がっており、うち北側の

噴煙は火口縁上の高さ約400mまで上がっていたが、特段、活動が活発化した様子は見られなかった。また、島の周辺の海域に変色水は認められなかった。

その後、海上保安庁が8月6日に行った調査では依然白色の噴煙は確認されたものの、8月23日の調査では噴煙活動は非常に穏やかになっていた。

硫黄島は、那覇市の北北東約190km、沖永良部島の北西約65kmに位置する火山島である。以前より複数の硫黄孔と噴気活動が認められている。有史後の噴火はいずれも爆発的で、20世紀中には1903年、1959年、1967年及び1968年に噴火した。1903年には全島民が一時久米島に移住し、一旦帰島したものの1959年の噴火で再度全島民が島外に移住、1967年の噴火で硫黄採掘者も撤退し、現在は完全な無人島である。

(文責: 気象庁火山課 長谷川嘉彦)

○教員公募のお知らせ

【愛媛大学理学部生物地球圏科学科・地球科学系】

1. 職名および人員: 教授または助教授 1名
2. 専門分野: 情報地球科学(コンピュータによる情報処理の手法を用いて、地震災害、火山災害、物理探査、環境変動予測、リモートセンシングなどの分野で研究実績のある方)
3. 担当授業: 上記分野に関連した学部・大学院の講義、実験、実習および共通教育の授業
4. 着任希望時期: 平成17年4月1日
5. 応募締切: 平成16年10月29日(金)必着
6. 提出書類:
 - 1) 履歴書
 - 2) 研究業績目録(査読論文とそれ以外に分けること)
 - 3) 主要な原著論文別刷(コピー可)5編
 - 4) これまでの研究概要(2,000字程度)
 - 5) 今後の研究・教育の計画および抱負(2,000字程度)
 - 6) 参考意見を伺える方2名の氏名および連絡先

注意: 応募書類には、教授希望または、助教授希望を明記してください。

7. 書類送付先:

〒790-8577

愛媛県松山市文京町2-5

愛媛大学理学部人事委員会

委員長 柳澤康信

8. 問い合わせ先:

〒790-8577

愛媛県松山市文京町2-5

愛媛大学理学部生物地球圏科学科

地球科学系主任 川崎智佑

電話 089-927-9646

Fax 089-927-9640 (事務室)

E-mail toshkawa@sci.chime-u.ac.jp

* 封筒の表に「地球科学教室教員応募」と朱書き、書留送付してください。

注) 本学科は平成17年4月1日より地球科学科と生物学科に改組され、本公募教員は前者に属する予定です。また、本学科では愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター(GRC)、および沿岸環境科学研究センター(CMES)と連携して教育・研究にあたっています。

参考: http://www.chime-u.ac.jp/~cutie/index_j.html

○教員公募のお知らせ

【信州大学理学部地質科学科】

1. 募集人員: 助手1名
2. 研究分野: 地層科学(担当教育分野: 新生代後半(新第三紀~第四紀)の地層を対象とする野外実習と室内実験、地質調査法実習、共通教育の地学実験・実習)
3. 応募資格:
 - 博士の学位を有するか、着任までに取得見込みの方
 - 35歳以下の方が望ましい
 - 地質図を作成して公表したことのある方が望ましい
4. 着任時期: 2005年4月1日
5. 提出書類:
 - A. 履歴書
 - B. 研究業績リスト(査読付き学術誌の原著論文、その他の論文と報告、国際会議での発表などに分類して記述してください)
 - C. 主要論文5編以内の別刷りまたはコピー
 - D. 研究教育歴の概要(1,000字以内)
 - E. 着任後の研究および教育の抱負(1,000字以内)
 - F. 応募者に関する所見を伺える方の氏名・連絡先
 - G. 本年12月中の連絡先(電話番号、メールアドレスなど)

(選考の過程で、本人に対して問い合わせや面接を行う場合がありますので、ご承知おきください)

6. 応募締め切り: 2004年12月3日(金)必着

7. 書類送付および問い合わせ先:

〒390-8621 松本市旭3-1-1

信州大学理学部地質科学科主任 三宅康幸

電話: 0263-37-2480 Fax: 0263-37-2506

email: ymiyake@gipac.shinshu-u.ac.jp

(封筒に「応募書類在中」と朱書きし、書留で郵送してください)。

なお、地質科学科の教員とその研究分野は以下のとおりです。

<層位構造研究分野>小坂共栄教授・大塚 勉助教授
<岩石・鉱物学分野>山口佳昭教授・森清寿郎教授・原山 智教授・牧野州明助教授

<第四紀・火山学分野>三宅康幸教授

<地殻変動研究分野>角野由夫教授

<地層解析研究分野>保柳康一助教授・吉田孝紀助教授
詳しい内容については地質科学科の以下のホームページをご覧ください。

<http://science.shinshu-u.ac.jp/~geol/>

○教員公募のお知らせ

【鹿児島大学理学部地球環境科学科】

1. 職名・人数: 助手 (地質科学講座) 1名
2. 公募分野: フィールド調査をベースとした地質科学分野
3. 担当科目:
 - (1) 専門教育 (野外地質実習, 室内地質実験, 地質図学およびゼミ)
 - (2) 共通教育 (地学実験等)
4. 応募資格: 33歳以下で博士の学位を有する者 (平成16年度取得見込みの者も含む)
5. 着任希望時期
決定後なるべく早い時期
6. 提出書類
 - a. 履歴書 (写真を添付し, 健康状態も記入してください)
 - b. 研究業績リスト (審査付き原著論文, その他の論文と報告書, 国際学会での講演, その他に区別して書いて下さい)
 - c. 主要論文 (3編以内) の別刷あるいはコピー
 - d. 教育・研究に対する抱負と今後の計画 (A4用紙1~2枚)
 - e. 応募者に関する所見を伺える方2名の氏名, 連絡先
 - f. その他, 特記すべき事項
7. 応募の締め切り: 2004年11月15日 (月) 必着
8. 応募書類の送付先及び問い合わせ先:
〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35
鹿児島大学理学部地球環境科学科
小林哲夫
E-mail: koba@sci.kagoshima-u.ac.jp
Tel: 099-285-8146 Fax: 099-259-4720

応募書類は必ず書留郵便で, 封筒には「公募書類」と朱書して下さい。

なお、応募者が多数の場合には、二次審査として面接を行う場合がありますので、ご承知おきください。

9. 地球環境科学科担当の教員構成 (アイウエオ順) (2004年9月現在): (地球科学に関連した人のみ専門分野を明記. 環境コースでは, 環境解析講座は主に分析化学分野, 多様性生物講座は主に分類学・生態学分野の研究を行っています.)

(地球コース)

地質科学講座 教授: 大塚裕之 (層位学, 地史学, 古脊椎動物学)・富田克利 (粘土鉱物学)*, 助教授: 井村隆介 (第四紀地質学, 変動地質学)・山本啓司 (構造地質学), 助手: [本公募] (*: 2005年3月31日定年退職予定)

島弧火山講座 教授: 角田寿喜 (固体地球物理学)・小林哲夫 (火山地質学)・宮町宏樹 (地球物理学, 地震学), 助教授: 中尾 茂 (測地学, 地殻変動論)

(環境コース)

環境解析講座 教授: 市川敏弘・坂元隼雄. 助教授: 富安卓滋・山本温彦 (岩石学, 固体地球化学), 助手: 穴澤活郎

多様性生物講座 教授: 鈴木英治・山根正気, 助教授: 佐藤正典・富山清升・宮本句子. 助手: 相場慎一郎

○東京大学地震研究所教員の公募について

1. 職種・人員: 地震予知情報センター 助手1名
2. 専門分野: 地震・火山観測流通ネットワークと即時的解析システム開発研究. 当所の情報基盤システムの運営に携わると共に, 新しい地震・火山の観測処理システムの開発をめざし, 地震及び火山観測研究の推進のために有用な次世代の観測流通ネットワークと即時的解析システムを研究開発する人を募集します.
3. 応募資格:
固体地球物理学 (地震学, 火山学, 測地学等) または情報工学の分野で研究経験があり, 博士の学位を有する者, または着任後数年以内に学位取得が見込まれる者.
4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期.
5. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により, 満55歳を越えることとなる者に5年以内の任期を定める. 再任は本研究所教授会の承認を得た場合1回限り可. また, 本公募により任用された助手は, 採用後10年を目処に教授会による研究業績等の総括的評価が行われます.
6. 提出書類:

- (1) 履歴書 (市販用紙)
 - (2) 業績リスト (論文の場合は査読の有無を区別すること。)
 - (3) 主要論文の別刷り 3 編程度
 - (4) これまでの研究業績と今後の研究計画 (各 2,000 字程度)
 - (5) 応募者について参考意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先。
7. 応募締切: 2004 年 12 月 13 日 (月) 必着. 封筒の表に「観測ネットワーク助手 応募書類」と朱書き, 書留にて郵送すること。
 8. 応募書類の提出先及び問い合わせ先:

(提出先) 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
 東京大学地震研究所 人事掛 宛
 (問合せ先) 同上 火山噴火予知研究推進センター
 森田裕一 e-mail: morita@eri.u-tokyo.ac.jp
 TEL: 03-5841-5704

○教員公募

【九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門】

1. 職種・人員: 固体地球惑星科学講座担当教授 1 名
2. 専門分野: 固体地球物理学 (地球内部の構造やダイナミクスの研究を固体地球物理学的手法 (地震学, 測地学, 地球電磁気学等) によって研究し, かつ教育に熱意のある方を希望)。
3. 着任時期: 平成 17 年 4 月以降 (決定後なるべく早い時期)
4. 提出書類:
 - (1) 履歴書
 - (2) これまでの研究概要 (A4 用紙 2 枚以内)
 - (3) 研究業績リスト {原著論文 (査読の有無), 総説, 報告書, 著書に区分}
 - (4) 主要論文の別刷り 3 編 (研究業績リストに○印を付す)
 - (5) 研究・教育に対する抱負 (A4 用紙 2 枚以内)
 - (6) 応募者を熟知し, 意見を聞ける方 2 名の氏名とその連絡先並びに応募者との関係
5. 公募締切: 平成 17 年 1 月 28 日 (金) (必着)
6. 書類送付先および問い合わせ先:

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門
 固体地球惑星科学講座担当教授候補者選考委員会
 委員長 中田正夫 Tel: 092-642-2515 (ダイヤルイン) Fax: 092-642-2684
 E-mail: nakada@geo.kyushu-u.ac.jp
7. その他

- ・提出書類のうち, (4) 以外は全て A4 用紙を使用すること。
- ・封筒に「応募書類在中」と朱書き, 簡易書留で郵送のこと。
- ・選考の最終段階において講演をお願いし, 面接を行います。

○教員の公募について

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助手 1 名
2. 所 属: 火山噴火予知研究推進センター
3. 公募分野: 観測的火山学分野

当研究所においては観測的火山学の研究は火山噴火予知研究推進センターを中心に行っております。今回公募いたします助手は同センターに所属し, 主として地球熱学, 地球電磁気学などの地球物理的な手法による観測的研究を推進することが期待されています。火山体の構造探査, 火山噴火現象の物理的解析, 新しい観測コンセプトの提案・そのための観測機器開発など期待される研究課題は多岐にわたっており, 火山物理学に意欲的な取組みをする方を求めます。そのため必ずしも従来の火山物理学というカテゴリーに限定せずに, 幅広い様々なバックグラウンドからの応募を期待しております。現在同センターには地震学や測地・重力などの観測に基づいた研究を進めている研究グループがあり, これらの研究者との共同研究も期待されております。
4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 採用時に博士の学位を有する者 (平成 17 年 3 月学位取得見込み者を含む)
6. 任期について:

本研究所の教員の任期に関する内規により, 満 55 歳を超えることとなる教員の所属する組織 (分野) の職に任期を定め, 任期は 5 年以内となります。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は 1 回限り可です。(ただし, 東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできません。) また, 本公募により雇用された助手については, 採用後 10 年を目処に教授会による研究業績等の総括的評価がおこなわれます。
7. 提出書類:
 - (1) 履歴書 (市販用紙可)
 - (2) 研究業績リスト

(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
 - (3) 主要論文の別刷り 3 編 (研究業績リストに○をつ

ける.)

- (4) これまでの研究業績 (2,000 字程度)
 - (5) 今後の研究計画 (様式自由)
当ポストに着任して取り組みたい研究プランのレポートを求めます。また現在までに進めてきた研究が当該ポストでの今後の研究とどのように繋がっているのか、どのように役立てる事が出来るのか、の点に必ず言及をお願いいたします。
 - (6) 応募者について参考意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先 (e-mail)
8. 公募締切: 2004 年 12 月 6 日 (月) 必着
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所流動破壊部門
栗田 敬
電話 03-5841-5757 FAX 03-5802-3391
E-mail: kurikuri@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所人事係宛
(電話 03-5841-5668)
封書を用い、表に「火山センター助手応募書類」と朱書きし、書留郵便で送付してください。

○教員公募のお知らせ

【北海道大学大学院理学研究科附属地震火山研究観測センター】

1. 職種・人員: 地震火山研究観測センター教授・1 名
2. 専門分野: 観測を基本とした陸域/海域の地震学、およびその関連分野
3. 着任予定時期: 2005 年 4 月 1 日
4. 応募書類:
 - (1) 履歴書 (国内外の学会活動, 受賞歴, 参加しているプロジェクト研究歴, 各種研究費受領歴, 学位審査履歴 (主査・副査のほか実質的指導を含む), 非常勤講師の経歴などを含む)
 - (2) これまでの研究経過 (2,000 字程度)
 - (3) 研究業績目録 (和文のものは和文で表記すること)
 - A. 査読のある論文および総説
 - B. 査読のない論文および総説
 - C. 著書
 - D. 解説, 報告などその他の出版物で特に参考になるもの
 - (4) 主な論文別刷または著書 5 篇 (複写可)
 - (5) 今後の教育・研究の計画と抱負ならびにセンターの今後のあり方についての抱負 (2,000 字程度)
5. 応募締切: 2004 年 11 月 30 日 (火) (必着)
封筒の表に「教員公募 (地震火山研究観測センター

教授) 関係」と朱書きし、書留にて郵送すること

6. 書類の送付及び問い合わせ先:
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究科
地震火山研究観測センター 笠原 稔
電話: 011-706-3591 ファックス: 011-746-7404
電子メール: mkasa@eos.hokudai.ac.jp
詳細はホームページを参照下さい
<http://www.isv.hokudai.ac.jp/>
<http://www.eos.hokudai.ac.jp/indexj.html>

○教員公募のお知らせ

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助手 1 名
2. 所 属: 海半球観測研究センター
3. 公募分野: マルチスケール観測固体地球電磁気学分野

地震研究所では、全所的に取り組むべき最重点課題の一つとしてマルチスケール観測固体地球科学をかかげています。そこでは、マントル対流から個々の地震及び火山噴火までの様々な地球内部の活動を、異なったスケールを持つ複雑な連鎖の結果として体系的に理解しようとしています。今回公募する助手は、その一翼を担う人材として海半球観測研究センターに所属し、海底観測を含む電磁気学的研究を行うことが期待されています。このほか、新しい観測コンセプトの提案・そのための観測機器開発、データ解析手法の開発など、幅広く意欲的な取り組みをする人材を募集します。また、当研究所の様々な観測研究グループや、物質科学、シミュレーション研究を主体とした研究グループに属する研究者との共同研究を通じて、地球内部のダイナミクス解明に新しい独自の貢献をされることも期待します。なお、本選考に際しては海底電磁気観測研究の経験の有無は問いませんが、採用後は、特定領域研究をはじめとする観測研究プロジェクトにおいて、観測の実施とデータ解析で積極的役割を果たして頂きます。

4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 採用時に博士の学位を有する者 (平成 17 年 3 月学位取得見込み者を含む)
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満 55 歳を超えることとなる教員の所属する組織 (分野) の職に任期を定め、任期は 5 年以内となります。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は 1 回限り可です。(ただし、東京大学教員

の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできません。)また、本公募により雇用された助手については、採用後10年を目処に教授会による研究業績等の総合的評価がおこなわれます。

7. 提出書類:

- (1) 履歴書(市販用紙可)
- (2) 研究業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
- (3) 主要論文の別刷り3編(研究業績リストに○をつける。)
- (4) これまでの研究業績(2,000字程度)
- (5) 今後の研究計画(様式自由)

当ポストに着任して取り組みたい研究プランのレポートを求めます。また現在までに進めてきた研究が当該ポストでの今後の研究とどのように繋がっているのか、どのように役立てる事が出来るのか、の点に必ず言及をお願いいたします。
- (6) 応募者について参考意見を述べられる方2名の氏名と連絡先(e-mail)

8. 公募締切: 2004年12月24日(金) 必着

9. 問い合わせ先:

東京大学地震研究所地震予知研究推進センター
上嶋 誠
電話 03-5841-5739 FAX 03-5689-7234
E-mail: uyeshima@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先:

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所人事係宛
(電話 03-5841-5668)

封書を用い、表に「海半球観測研究センター助手応募書類」と朱書し、書留郵便で送付してください。

○シンポジウム「南九州の火山防災を考える一霧島、桜島、そして小説/死都日本一」開催のお知らせ

日時: 2004年11月6日(土)~7日(日)

場所: 宮日会館宮日ホール(宮崎市高千穂通1-1-33)

【第1日目】シンポジウム(注: タイトルはすべて仮題)
基調講演 石黒 耀

霧島火山群と桜島火山、そして小説「死都日本」

- (1) 南九州の火山の多様性と噴火史 小林哲夫(鹿児島大学)
- (2) 南九州の大規模火砕流 横山勝三(熊本大学)

火山噴火と現代社会

- (1) 火山観測から見た霧島火山 鍵山恒臣(京都大学)
- (2) 九州の火山防災と砂防事業 国土交通省九州地方

整備局河川部

パネルディスカッション~火山との共生をめざして~

コーディネータ: 伊藤和明(防災情報機構), パネリスト: 池谷 浩(砂防・地すべり技術センター), 宇井忠英(環境防災総合政策研究機構), 鍵山恒臣(京都大学), 田島健夫(大霧島観光協会), 谷口義信(宮崎大学), 他宮崎県地元住民2名を予定

【第2日目】実際にたどる死都日本(現地見学会)

プログラムの詳細および申し込み方法は以下のページ参照(申込み〆切: 10/7(消印有効))

<http://www.kazan-net.jp/shitosympo/index.html>

主催: 「南九州の火山防災を考えるシンポジウム」実行委員会* (実行委員長: 林信太郎 秋田大学)

共催(予定): 特定非営利活動法人日本火山学会, 社団法人土木学会西部支部・地盤工学委員会火山工学研究小委員会, 国土交通省宮崎河川国道事務所, 国土交通省大隅河川国道事務所, 特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構, 日本火山の会, 桜島友の会, (財)砂防・地すべり技術センター

後援(予定): 宮崎県, 鹿児島県, 社団法人砂防学会, 日本災害情報学会

*メンバー(五十音順) 石黒 耀(「死都日本」著者), 井村隆介(鹿児島大学), 伊藤英之(砂防・地すべり技術センター), 宇井忠英(環境防災総合政策研究機構), 鍵山恒臣(京都大学), 小山真人(静岡大学), 田島靖久(日本工営), 竹内晋吾(日本火山の会), 筒井正明(ダイヤコンサルタント), 林信太郎(秋田大学), 福島大輔(桜島友の会)

○深地層の研究施設計画に関する国際会議開催のご案内
核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター幌延深地層研究センター

第1部: 瑞浪地層科学研究国際会議'04

一超深地層研究所計画における地表からの調査段階と広域地下水流動研究の現状一

1. 日時: 2004年10月21日(木) 13:00-17:30,
10月22日(金) 10:00-14:30

2. 会場: 瑞浪市総合文化センター
(岐阜県瑞浪市土岐町7267-4)

3. 通訳: 日・英同時通訳あり

4. 参加費: 無料

第2部: 幌延深地層研究計画国際ワークショップ

1. 日時: 2004年10月25日(月) 9:00-18:00,
10月26日(火) 9:00-16:30

2. 会場: 幌延町公民館

(北海道天塩郡幌延町宮園町1番地)

3. 参加費: 無料

参加申込などの詳細につきましては以下のホームページをご確認ください。

サイクル機構東濃地科学センター

<http://www.jnc.go.jp/ztounou/>

サイクル機構幌延深地層研究センター

<http://www.jnc.go.jp/zhoronobe/>

問合せ先: 核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター

瑞浪超深地層研究所 研究情報化グループ

(担当 花室) E-mail kokankai@tono.jnc.go.jp